

令和 7 年度 市長記者会見 発言要旨

令和 7 年 11 月 25 日 (火) 開催分

< 開催時間 > 14:00~14:30

< 会 場 > 庁議室 (市役所本館3階)

< 会見案件 > ・12 月補正予算案の概要
・福井アリーナ (仮称) 広報活動について
・道路除雪にご協力ください

< 質疑応答 >

【記者】

児童館のプレールームの空調整備と、避難所空調の詳細設計をそれぞれ前倒しするというのですが、改めてその理由を教えてください。

【市長】

児童館は子どもたちの大切な居場所という点で、少しでも快適な空間を提供することが重要だと考えています。市内の児童館は全地区ではありませんが各地区に分散しており、居場所として非常に有効です。昨今は酷暑が続いており、子どもたちが暑くてプレールームで遊ばずに別の部屋に戻ってしまうことがあります。本来は令和 10 年までの計画でしたが、こうした状況を踏まえ、空調整備を前倒しすることにしました。

令和7年度の避難所の空調設備は、すでに 10 校分の整備に着手していますが、設計業務の入札が不調となり、遅れが生じました。空調設備の整備には意外と時間がかかることが分かり、8 年度の本予算とは別に、まず設計部分を早めに入札することにしました。設計契約が早く進めば、その分整備も前倒してきますので、今回、令和 8 年度の 10 校分の実施設計費を補正予算として計上し、少しでも早く整備が進むようにしました。

【記者】

避難所空調の設計業務の入札が不調になったとのことですが、その背景は何でしょうか。

【危機管理課】

今回の避難所空調については、全国的に体育館の空調整備が進められており、福井県内でも多数の自治体が同時期に業務委託を行っています。そのため業務時期が重なり、受注できる業者が不足し、入札不調につながったと考えられます。前倒して早期に発注することで、この問題が緩和される見込みです。

【記者】

今回、アリーナの説明会にはいろいろな方が来られて、一部意見も出ていますが、市長ご自身、肯定的な意見・否定的な意見など、どんな声が多かったと感じていますか。

【市長】

説明会ではフリーに話したり意見を述べたりできる場なので、反対意見が取り上げられやすいと思います。一方で、賛成の方があえて黙っていることもあるのかなと思っています。よりフランクな形で、誰でも来やすい場所でやることで、アリーナに対する全体的な思いがつかめるのではないかと考えています。気になる点や不安など、積極的な活用を考えるためのご意見をいただけるのは心強いです。今、いろんなご意見や質問、心配される事があるとは思いますが、それらを掘り起こしてしっかり対応していけば、より多くの方に喜んでもらえるものになると思っています。

【記者】

この取り組みは機運醸成にどのような役割を果たしていると感じていますか。

【市長】

報道で取り上げてもらい、取り組み自体を知っていただけるのは非常にありがたいです。これまでは議会や地元が中心でしたが、今回はより人が集まる場所で実施したことで、市全体とは言いませんが、幅広い地域から参加があり、機運の醸成につながっていると感じています。

【記者】

今回、市民向けの説明会を2回実施し、898人が来場されました。市民の関心の高さについてどうお感じになりましたか。

【市長】

市民の皆さんは長い間議論を重ねてきたこともあり、アリーナ計画の存在はほとんどの方がご存じだと思います。その上で、今回のトークセッションなどを通して「実際どういうものなのか」ということを知っていただくという意味でも、非常に効果のある説明会だったと思っています。

【記者】

2回実施する中で、反省点もあったというお話がありましたが、具体的にはどのような点でしょうか。

【副市長】

1回目と2回目でやり方を少し変えました。2回目は市職員も参加したトークセッション形式にし、質問を受ける場も設けました。市民のみなさんの意見を伺いながら、方法を変えていったということです。

【記者】

先ほど紹介された市民の意見ですが、アンケートで集めたものなのか、職員が直接聞き取ったものなのか教えてください。

【副市長】

会場にパネルを設置し、それを見に来られた方のそばに職員が立っていました。質問があればその場でお答えし、意見も直接伺うという形で対応しています。

【記者】

市民の意見には肯定・否定両方ありますが、これらに対する回答は今後どのように行っていく予定でしょうか。

【市長】

会場で答えられる内容については、その場でお答えしています。ただ、たとえば駐車場や周辺道路の渋滞についてなど、全体の方針はあっても細かな部分ではまだ解決していないものもあります。「誰にどう回答する」という形ではなく、市民の皆さんの疑問を把握した上で、事業を進める中で解決策を示していくという形になると思っています。

【記者】

今後、調査や議論を経て答えられることが出てきた場合、市民へはどういった形で広報されますか。

【市長】

先ほども申し上げたように、いただいた意見は事業を進めるうえで非常に参考になります。具体策が固まってきた段階で、自然と市民の皆さんに示していく形になると思います。例えば、議会で議論になることもあるかもしれません。一問一答で個別に回答を出していくものとは少し違うイメージですね。

【記者】

次回パリオでの開催を含めて3回行うとのことですが、それ以降の開催予定はありますか。

【副市長】

パリオでの開催が終わった後に、次の進め方を検討します。また、主要な公民館でも説明の場を設ける予定です。地域ごとに1〜2か所を選んでパネル展示を行い、職員が時々立ち会って質問に答えるという形式を考えています。ショッピングセンターは3回終わった後に、次の手法もあらためて検討します。

【記者】

公民館では常設のパネル展のような形になるのでしょうか。

【副市長】

はい、期間を区切ってパネルを設置し、その期間中に職員が説明できる日を設ける形です。大きな説明会というより、来られた方に丁寧に説明できるスタイルを考えています。

【記者】

ショッピングセンターでの説明会について、2回目のトークショーでは市の職員も対応されたとのことですが、1回目とやり方を変えた理由は何でしょうか。

【副市長】

1回目の際、市民の方から「質問したい」という声がありました。そのため、しっかり答えられるよう市職員も対応に入ったという経緯です。

【記者】

なるほど。2回目の質問数はどれくらいでしたか？

【副市長】

質問は3件でした。